

午後 1 時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 定刻の時間となりましたので、ただいまから平成24年10月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、3項目について事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表からお願いしたいと思います。事業発表に係る質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へ進行したいと思っております。なお、終了は14時30分を予定してございます。ご協力のほどお願い申し上げます。

【市長】 それでは10月の会見ですけれども、台風17号が日本列島を縦断ということで大きな被害をもたらしまして、まずもって被災をされた皆さん方にお見舞い申し上げたいと存じます。敦賀のほうは、報道よりも比較的何事もないに近い形で終わったわけでありまして、ほっといたしておるところでもございます。

そういう中で、昨日は総合防災訓練を開催いたしました。多くの皆さん方に参加をいただき、いざというときに備えたいということで、これからもしっかりと対応をとりたいと思っておりますけれども、最近よくいろんな警報が出ます。メールのほうでも竜巻、大雨、洪水注意報、警報というのが出て、なかなか外れてうれしい警報ではございますけれども、それがだんだんなれてきて、また警報だなどという意識になりますと非常に心配でありますので、そういうことのない啓発活動、やはり警報等が出れば十分注意をしていくというそのような形で市民の皆さん方が自分たちの地域、自分たちの身は守るという意識をしっかりと醸成をして取り組んでいきたいなというふうに思っているところでございます。

それでは、あと発表項目に従いまして座って説明申し上げます。

まず、栗野子育て支援センターの開所でございます。

私どもも地域住民の要望もございまして、やはり子供たちを健やかに地域で育てるという視点から、そういう拠点づくりを行っておるところでございますけれども、このたび栗野地区の旧新和保育園の跡を改修しまして開所いたします。開所日等々につきましては、ここに書いてあるとおりでございます。

次に、つるが観光物産フェア2012の開催でございます。

これは毎年開催をさせていただいておりますけれども、私ども敦賀市の観光及び産業の活性化を図ろうということで、特産品の展示やら販売、また本市とゆかりのある地域からもご参加いただいております。その友好を深めておるところでございます。10月27、28日の2日間を予定いたしております。きらめきみなと館、その周辺、金ヶ崎緑地なども活用いたしたい、このように思っております。

今回、特産品で敦賀ピロシキというコンテストも行うようございまして、ぜひ記者の皆さん方も参加をいただいて召し上がっていただきたいなというふうに思います。

次に、第33回敦賀マラソンの開催であります。

これも恒例でございまして、今回はゲストランナーで山口衛里選手をお招きしておるところでございます。参加人員は昨年よりちょっと減っておりますけれども比較的多くの皆さん方に参加をいただいて、あとはお天気がよくなるように祈るばかりでございますけれども、ランナーの皆さん方には爽快のうちに走っていただきたいなと思っております。

私のほうからは以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました3つの項目につきまして質問をお受けしたいと思います。最初に幹事社さん、ございましたらお願いをいたします。——よろしいでしょうか。

それでは、各社お伺いをしたいと思います。発表項目につきましてご質問等ございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 マラソンですけれども、先ほど例年よりやや少な目といったお話がありました。実数、それから昨年と比較したところの数をちょっと教えていただけますか。

【教育長】 それではお答えします。昨年度が4,217人でございましたけれども、今年度は4,018人ということで、約4.7%人員が減っております。

【記者】 なかなか微妙な数字なので分析等は難しいかもしれませんが、数が減った原因などのようなものは、思い当たる節があるかというとおかしな聞き方ですが、何かありますでしょうか。

【教育長】 特に思い当たるところはございません。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございますでしょうか。——よろしければ次に参りたいと思います。

それでは次第の3番目でございます。フリーの質疑応答へといきたいと思っております。これも幹事社さんのほうからよろしく願いをいたします。

【記者】 本日、野田内閣の第3次の組閣がありまして、もんじゅを所管する文部科学大臣に田中真紀子さんが就任される見通しとなりました。田中さんについてですけれども、もんじゅの絡みの中で、これまで政府として廃炉から一転、現状維持というふうになっているかと思うんですが、田中さんに期待すること、注文がございましたら一言お願いします。

【市長】 田中大臣におかれましては、自民党当時だったと思っておりますけれども科学技術庁長官を歴任されておられて、もんじゅのことにつきましても恐らく熟知をされているというふうに思っているところでございます。そういう観点で、今回、2回目の担当大臣ということになられたわけでありまして、もんじゅのいろんないきさつ等は重々ご承知だというふうに思っております。国として、もんじゅの研究成果を出していこうというのは今の政権の中で決まっていることとございますので、ぜひその路線に沿って研究を続けていただき、いい研究成果を生み出せるように見守っていただきたいというふうに思っております。

【記者】 近く全原協のほうで役員会を開かれるかと思うんですが、その後、田中大臣のほうにお会いする予定ってありますか。

【市長】 ついせんだって平野前大臣にお会いしたばかりでございます、そのことは恐らく平野前大臣のほうからも田中大臣のほうに引き継ぎをされておるというふうに思いません。全原協としても、ご挨拶というような観点からはお伺いをしたいというふうには思っております。

【記者】 敦賀原発に関してですけれども、経産大臣に枝野さんが留任ということですが、これについて、また期待とか注文があると思うんですが、お願いします。

【市長】 枝野大臣は引き続いて大臣をされるわけでありまして。規制庁も立ち上がりまして、やはり経済産業省として経済の発展、また産業の育成、大きな担当課題があるというふうに思っています。特にそういう中ではエネルギー、要するに経済産業省として見れば原子力を推進をしていく立場になるというふうに私は思っておりますので、その原点に立ち返っていただいて推進をしていく形をとっていただきたい。そして、その反対として規制庁があるわけとございますので、そういうバランスをとりながら、しっかりと行っていただきたい、このように思っております。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社ご質問がございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 先月の中旬に、いわゆる準立地に対して安全協定の回答が電力各社からあったと思っております。それについて、準立地のほうは満額回答でないというふうないろんな不満の声もあったと思うんですが、それについてはどのようにご見解をお持ちでしょうか。

【市長】 これは私も前からお話をさせていただいたとおり、やはり準立地の皆さん方も原子力に対してはいろんな心配なども持っておられますので、やはり安心をしていただくためのいろんな協定は結ぶべきだというふうに思っております。今回示された案につきましては、満額ではないとはいえ、ある程度、準立地の皆さん方の希望も取り入れた形ではないかなというふうに思っておりますので、私も準立地の皆さん方とは立地、準立地という立場の中でこれからも連携をとって、原子力の安全というものに対してしっかりと監視していきたいというふうに思っております。

また、それと同時に、準立地も原子力発電所の停止によって大きな経済的な影響を受けておられる地域ばかりでございますので、そういう点については共通課題も多くございますので、これからも連携をとっていきたいというふうに思っています。

【記者】 文部科学大臣に田中真紀子さんが就任すると発表されたんですけれども、文部

科学大臣はここ数年というか、民主党政権になってからかなり短い頻度でかわっています。それから平野大臣は比較的もんじゅについて理解があって、議会の答弁でも市長は応援団というような言葉も使われていたぐらいなんですけれども、人がかわることで方針が変わることは多分ないんじゃないかなとは思いつつも、田中真紀子さんは過去の言動もあってそういう不安というのものもあるんじゃないかなと思うんですけれども、そのあたりどうでしょうか。

【市長】 過去といいますと、恐らく科学技術庁長官というときの話だというふうに思いますけれども、その当時とは政権もかわりましたし、かなり時代も変わっておりますので、恐らく田中大臣には前平野大臣のいろんな路線を引き継ぎながら、もちろん安全、安心というものを最優先として、また科学技術の進展のために必ず頑張っていただけの方だというふうに信じております。

【記者】 あともう1点、枝野大臣、先ほど経済産業省なので原発を推進する立場だというふうにおっしゃったんですけれども、枝野大臣は著書を出されて、原発を全廃すべきだというような主張とか、国営化事業にすべきだとかという全く逆の考え方を著書の中で述べているような方なんですけれども、それに対してそういうふうにおっしゃったわけではないのでしょうか。

【市長】 枝野大臣個人としては、そういうお考えは恐らくかなりお若い時分から持っていらっしゃるということは私どもにも情報として入っております。ただ、経済産業大臣という立場でございますので、やはり経済産業省が果たす役割というものもあるというふうに思います。そういう中で、今までの発言を聞いておりますと非常にお迷いになっておられるなということも感じておりますし、先ほど言いましたように規制庁が立ち上がりしましたので、その部分はしっかりと別の分野でいろんな規制、また安全対策などをやっていきますから、やはり経済産業省としては経済のこと、産業の育成、これは非常に国家にとって大事なことでありますので、そういう分野で頑張っていたらなというふうに思います。

やはり国のことを思えば、個人の思いというのはある程度封じ込めなくてはならんということが多々あるというふうに思っております。

【記者】 3・4号機のことでお伺いします。先週東京に行かれて、経産大臣にはお会いできなかったことも含めて、改めてこういう新しい閣僚が出そろったときですから、この場で3・4号機の必要性なり何なり、もう一度お話を伺いできませんでしょうか。

【市長】 これはついせんだって北神政務官にちょうどお会いできましたので、今造成のでき上がった3・4号機建設予定地の写真なども持っていきながら、また現在建設中であるJ-POWERの大間、そして松江にあります発電所などは運転を再開していこうという動きも発表されまして、そうなるまいりますと、ある程度、野田総理も重要な電源の一つであるという考え方は持っておられるようでございます。

そういう中で、3・4号機につきましてもあれだけの投資をし、いつでも認可がおりれば建てれる状況にあるということなども説明させていただき、私どもはより安全な、そして、より安全イコール最新の技術等々がプラスになること、また地元の活性化、そしてこれは地元のみならず日本全体の景気低迷の中で、ある程度公共事業というものを見直されている中でありまして、公共事業の一環みたいな形で工事が進んでまいりますと大きな日本の元気につながるということも考えながらお話をさせていただき、北神政務官のほうからは一定の理解は得られたんじゃないかなというふうに感じて帰ってきたところでございます。

【記者】 では新しい大臣が——大臣はかわらないんですね。大臣はかわらないけれども、引き続きまた現地を見てくれというようなことをお願いをし続けるということによろしいですかね。

【市長】 はい、これは北神政務官にお話しして、大臣に伝えてくれということはお話ししてございます。

【記者】 ところで今お話がありました大間ですけれども、対岸の北海道とか函館市が建設を再開するに当たって、訴訟も辞さないというような態度を示しているようですけれども、こういったことについては、皆さんとしては建てる側の立場の首長さんでありますけ

れども、こういった動きに対してはどのような感じをお持ちでしょうか。

【市長】 これは当事者の皆さん方でやはり十分話し合いをしていただかなくてはならないのかというふうに思っております。あちらのほうの事情になりますと、ちょっと私どもも海を挟んでという地域でありますし、今までの関係というものも理解しておりませんので、やはりしっかり話し合いをし、もし国がそういう中で関与できるのであれば、国も中に入ってしっかりと話し合いをして解決をしていってほしいなと願います。

【記者】 最後にします。

ということになりますと、将来の話なのでお話難しいかもしれませんが、滋賀、京都も同じような行動に出るかもしれません。そういったところに対しては、地元の首長さんとしてはどのような理解を求めるような活動を今後進めていきたいというふうにお考えでしょうか。

【市長】 やはりそういう関係の自治体の長の皆さん方としっかり話し合いをしたいなというふうに思います。

【記者】 原発の再稼働についてお聞きします。

最近、枝野大臣のほうで第三者委員会である規制委員会、規制庁のほうで判断とおっしゃっていますし、田中規制委員会委員長は、政治的判断はしないということを伝えていきます。今後、総選挙もいつあるかわかりませんが、再稼働はどこが判断すべきだというふうに理解されていますか。

【市長】 恐らく政治的な分野と、推進をやっていく経済産業省というそういう立場であればそこと、規制部門、そして地元は絶対必要でありますので、そういう4者がしっかり話をしながら判断をしていけばいいんじゃないかなというふうに。どこか一つが欠けても難しい問題は残るかもしれません。

【記者】 あと新增設とカリブレースについては原則進めないというのは環境戦略でうたわれているわけですが、敦賀3・4号機については、1号機、2号機が廃炉も取りざたされておりますけれども、交換条件として建てろというようなことを要求する考えとかはあるんですか。

【市長】 1号機は40年という一つの節目を迎えておりますので、その安全確認が必要であります。また2号機についても、今、破碎帯の調査をしておりますし、年数的にはまだまだ使えるんじゃないかというふうに思いますけれども、そういう安全確認をする必要がございます。安全性が確認をされれば、まだ稼働しても私はいいいというふうに思っておりますので、そういう意味では、こちらはいいからこちらにというような思いは持っておりません。

【記者】 どちらもということで。

【市長】 いや、1号機も2号機も、それを差し出すからこっちをというような、そういう考えは持っておりません。

【記者】 3・4号機のことで、今質問にもあったように戦略の中では新增設は認めないというふうに明確に打ち出しているんですけれども、3・4号機の計画中のところで要請に行くと、はっきりと認めないとは大臣も政務官もおっしゃらない状態なんです。そのような状態について、この間、要請に行かれてどういうふうに受けとめられましたか。あと、ほかの人も要請に行っていますけれども。

【市長】 やはりそれだけエネルギーを日本として確保していくという難しさがバックにはある。しかし国民の多くの意見というのは、原子力に対して非常に危ないなという不安を持っておる。そういうはざまに立って揺れ動いている心がそういう形にあらわれたのかなというふうに思います。

本心は、やはり必要だと思っているんじゃないかなと私は思います。

【記者】 枝野大臣の発言も最初、含みを持たすような形で個別に判断するというのも言ったり、県議会の議長が行くと、中止ならそういう地域対策をセットに出すというようなこともおっしゃっているんですけれども、地元としてマイナスのように受けとめているのか、むしろ、すぐ認めないというふうに言い切れないところにまだ可能性があるというふうに思われているのか、どちらですか。

【市長】 恐らく可能性が残っているからそういうふうにおっしゃっているのではないか

というふうに私どもは理解いたしております。

【記者】 9月議会が終わったばかりなのですが、9月議会で話し合われた件でお伺いしたいんですけども、特別委員会で駅前広場の整備事業の中で、太陽光パネルを設置するかしらないかですごくもめたと思うんです。塚本副市長もいらっしやったと思うんですが。一方で駅前の横には原子力の研究所というのもあると思うんですが、まちづくりの上で一貫性がないように思われるんですけども、それについてはある程度デザインについては了承が得られたようなんですが、市長としてはどのように受けとめられているのかというのを伺えますか。

【塚本副市長】 いろいろ見解はあると思うんですけども、議会で申し上げてきたように、敦賀は四十数年にわたって原子力と共生してきたまちなんですね。3・11が発生して原子力災害も引き起こされた。そういった中で、敦賀のまちは、やはり原子力に特化したまちよりも、エネルギー全体にわたるような、そういう懐の深い市民だよというメッセージがどうしても必要なのかなというふうに思うんです。それが駅前のシンボリックなところにも太陽光をきちっと設置する。一方では原子力工学研究所がある。全てにわたってエネルギーに関連するものは今後いろんな形で出てくるかもしれませんが、原子力に余り特化しているというようにとらわれないような市民性があってしかるべきかなというふうに思います。

また市長が申し上げますけれども。

【市長】 同じです。

【記者】 今度は原子力防災のことで。

原子力防災計画の地域計画を来年の3月までに立てなさいということで、今まさにようやく動き出したところですが、市長ご自身は、この半年の間にいわゆる実施計画まで立てることができるような状況だとお考えでしょうか。隣の滋賀県であるとかそういうところとの交渉が全く没交渉の中で、この半年の中でUPZをどれだけ有効に訓練をするような計画を立てられるというふうにお考えでしょうか。

【市長】 今回30キロという一つの範囲が示されたというふうに思います。そういう中では、かなり広範囲になりますので、関係の自治体も物すごくふえてまいります。そういう皆さん方と話していくのを半年でやるというというのは、私はちょっと難しいんじゃないかなというふうに考えております。

そういう意味では、国としてしっかり汗をかいていただかなくてはならんことになるというふうに思いますけれども、これはやはり国民の皆さん方の安心にもつながる部分だというふうに思いますので、しっかり国としてやっていただきたいなというふうに思います。

【記者】 その場合において、国や県、国は一応ボールを投げたつもりでいるんでしょうけれども、県の対応を待って隣の滋賀県とかとの交渉を進めるのではなく、先行して敦賀市と、それから例えば高島市、長浜市ともう少し、高いレベルに至らないまでも防災を前提とした交流を図るとか、そのような地ならしのようなものを先行してお進めになるようなつもりは市長としてはないのでしょうか。

【市長】 今も滋賀県の皆さん方とのいろんな交流は行っております。ただ、やはり原子力防災となりますと、最低でも県レベル、そして国レベルの話でありますから、これはまず県同士の話し合いというものも必要でありますので、私どもはそういうものを受けて、そして個々に対応していくのがいいというふうに思います。そういう意味では、直ちに県、国を差し置いてそういう行動を起こそうとは今思っておりません。

【記者】 先日の9月議会の一般質問で、市長はLNGに関する答弁で、敦賀で希望するというようなお話をされたと思うんですけども、具体的に例えばどういう施設なり、どういうものをイメージしているのか、ありましたら教えてください。

【市長】 知事も東京のほうでいろいろお話もされておりますし、特にロシアのウラジオストクでのAPECの会談などでも日本とのいろんな話し合いの中でそういう計画も、そう夢のような話ではないということがわかってまいりました。かつて私どももLNG基地の構想もあったところでもございますし、地の利を考えた面においても、そういう面では敦賀は非常に優位性のあるところだというふうに自負いたしております。これは港の活性化ということもあります。当然そうなりますと、タンカーが接岸する部分が必要でありま

すし、またタンクも実は必要であります。そういう意味で、まだまだ具体的な話には至ってはおりませんが、じゃ全くそういう場所がないのかといえば、そういうこともないところがございますし、2期工事などの話も少し港の活性化としては難しいということもありますけれども、いろんなトンネル工事の残土のことを考えたり、そこをうまくバランスよく考えていくと、いい形で港湾整備もできる可能性もあります。そうすると、タンクローリーというんですか、天然ガスを積んだ船なども接岸できる場所も十分確保できるのかなというふうに思います。

ただ、技術的な問題がございますので、私ども素人としては大ざっぱにそういうふうに踏んでおりますけれども、決して不可能ではないなというふうに思います。これは港の活性化ということを含め、今言いましたエネルギーのベストミックスの中の天然ガスも一つの重要な電源にもなり得るものであります。原子力は原子力としてしっかり私どもとして取り組みながら、港の活性化を含め、LNGなどもそういうところで敦賀の港が活用されれば、これは大変素晴らしいことだというふうに思います。まだ具体化はしておりませんが、またそういう話が浮かんでくれば積極的に敦賀市として取り組んでいきたいなというふうに思います。

【記者】 現段階で例えばイメージできるのは、LNGの備蓄基地のようなもの。例えばLNGの発電所とか火力発電とか、そういうものもある程度、市長の頭の中には想定されているのでしょうか。

【市長】 電力のいろんなベストミックスの中で、同じ化石燃料を燃やすにしても、石炭であるとか石油から比べると天然ガスはCO₂の発生が少ないと言われておりますので、そういうところでそういう発電所なども可能であれば、ぜひエネルギーのまちとしては取り組めたらなというふうには考えております。もちろんLNGというのは、そのみならずいろんな活用方法がありますし、例えば私どものガスも天然ガスを使っております。そういうラインを結んでいけば、大都市、要するに京都なり大阪なりそういうところとも十分結べる位置関係にございますので、そういうことも含め、発電所も含め、十分いろんなことが考えられるんじゃないかなと思います。

【記者】 そうすると、仮にですけれども、そういうものをやろうとする場合、なかなか敦賀って土地が少ないところではあるんですけれども、どういうところを考えていますか。今、2期工事というふうにおっしゃいましたけれども、あそこもそれほど広くないような気はしますし、例えば何かそういう想定をしている場所とかがあるのかなと思っております。

【市長】 探せば結構あるもので、これは具体的にはちょっと場所を挙げられませんけれども、それは決して不可能ではないと思っています。

【記者】 昨日、地震を想定した市の防災訓練があつて、避難所への誘導等も行ったと思うんですけれども、そういう訓練が終わった後の課題とか感想ということを1点と、あと県が津波の想定を見直して、白木だったら4メートルとかいうふうな高い数字が出ているんですけれども、今後、津波を想定した防災訓練をするかどうか、どういうふうに考えているのか教えてください。

【市長】 まず昨日の訓練でありますけれども、少し台風の情報が入っていましたので戸惑ったところもございましたけれども、少し間があいて、のんびりといいますか、危機感が余り出せなかったのが反省点かなというふうに思います。やはり訓練ですので、やる側があわてるぐらいにできればとやるべきじゃなかったかな。これは一つの反省かなというふうに思っております。

ただ、いろんな確認ができた。訓練というのはあくまでも訓練でいろんなことを確認するという意味がありましたので、そういう観点からは、ある程度できたんじゃないかなというふうに思っております。

津波でありますけれども、今のところだと白木地区で4メートル。それでも今住んでいるところまでは到達しないというところでもあります。また、湾内の中で大体50センチぐらいでありますので、一度これはまた地区の皆さん、特に海に近い地区の皆さん方も心配されているかもしれないので、そういう意味では、そういう近くの地区の皆さん方と相談をしながら、もしやるとしても余り大きな範囲ではできませんが、検討はしてみたいなと思いますけれども、直ちにすぐやるというような、そういうことはありません。

【木村副市長】 今回の防災訓練につきましては、当初の計画から各団体ですとか各機関、それぞれ出てきていただきまして会議を何回も持って、その中で作りつけられたものでございます。それぞれの団体がこういうこともやりたい、ああいうこともやりたいということで、内容的にはかなり以前よりもふえたのかなというふうに思っておりますし、それぞれ団体がやってみて、いろんな課題を探しながら今後につなげていくということで、また今後、反省会等も持ちたいと思っておりますので、そういった中でいろんなことが出てくるかなと思っております。

【記者】 それと、近いうちに全原協の役員会を開くと前おっしゃっていたと思うんですけども、もう日時とか場所とか、あと議題など、わかっていたら教えてください。

【市長】 4日の13時30分から東京の全国都市会館になります。

内容的には国のいろんな動きの中で、全原協としての対応などを協議したいなというふうに思っております。

【記者】 それって公開しているんですか。

【市長】 公開はしたことないので、非公開だと思います。

【記者】 1点だけ聞きそびれていたんですが、今回発表はなかったと思うんですけども、担当課長でもいいのでお伺いできたらと思うんですが、震災瓦れきの今の状況、今後の予定。そろそろ多分、試験焼却が始まると思うんですけども、そこら辺お伺いできますか。

【市民生活部長】 8月から試験焼却をしたいというふうに岩手県のほうと国を通じて直接お話をさせていただいております。ただ岩手県のほうが調整等いろいろありまして、今現在まだ試験焼却がいつというのは決まっておりますが、詳細を岩手県のほうと詰めている状況でございます。

高浜町のほうが先般、広報紙のほうで10月末か11月には受け入れしたいと発表しましたが、恐らくその辺になるんじゃないかなと思いますが、まだはっきりいたしませんので正確に申すことはできません。決まりましたら、皆様方にはしっかりと連絡はさせていただきます。

【記者】 いずれにせよ高浜町と足並みをそろえる形になるんですよね。同じ場所から持ってくるわけですから。

【市民生活部長】 そうです。高浜町のほうも大槌町のほうの木材チップでございますので、高浜町と敦賀市が足並みをそろえてあげないと向こうに同じことを2回させるということになりますので、足並みはそろえたいと思っております。

【記者】 何度も済みません。

先ほどのLNGの関連、発電所の設置も可能であればというふうにご希望を申されて、探せば場所はあるんだとおっしゃいました。敦賀半島の先にもかなり広いい場所があるかと思うんですが、それはオプションとしては、選択肢としては入っているんでしょうか。

【市長】 敦賀半島の先は、3・4号機をつくらないといけませんので、そこにはございません。

【記者】 そこを一つの候補地として、今後どのような展開をしていくかわからないので、そういうことも視野に多少は入っているというふうには解釈はしないほうがいいのでしょうか。

【市長】 しないほうがいいです。

【記者】 再稼働が不透明になってずっとたつんですけれども、敦賀のほうでまた補正を組んだり、年内に改めて新しい事業を起こして雇用確保であったり経済対策というのは打つ予定があるんでしょうか。あった場合には、具体的に教えていただけたらと思います。

【市長】 議会でも答弁させていただきましたように、今回の対策というのも、それがずっといい形でというのはまだ見えないところもございますので、やはり様子を見ながら適宜いろんな対策は打って行って、雇用の確保、また経済活動が少しでも元気になるように知恵を絞っていききたいと思っております。

【記者】 今のところ具体的には予定はないということでよろしいですか。

【市長】 具体的にはありません。予算お認めいただいて、これから執行するところでありますので、その成果もちょっと見てからというふうに思います。

【記者】 閣僚のところに戻るんですが、田中大臣なんですが、外務大臣のときにかなりどたばたして当時の首相に更迭されたという、そのイメージのほうが科学技術庁長官のときのイメージよりも強い人が多いと思うんですが、もんじゅの微妙な時期にそういった、たまにワンマンプレーをしまいそうなりちょっと危ういところのある人が大臣を務めるということに対して、若干の懸念が何かありましたら。もしくは、こういうふうにしてほしいというところがありましたら、お願いします。

【市長】 田中大臣は、ご承知のように中国との非常にパイプがある方だというふうに思っております。これは田中角栄さんの関係からだというふうに思いますし、ついせんだってのパーティにも出席をされておられました。そういう意味で、科学技術としての中国との付き合い。今、特に中国は原子力発電所をかなりの数つくっていこうという計画でありまして、私どもも前、中国の海塩県に訪問いたしましたけれども、ぜひ日本のほうでそういう技術者を育成してほしいというお話などもしておりました。逆に言いますと、そういうルートを通じて田中大臣のほうから、多くの中国の学生など原子力に関連する学生などが来てもらえるんじゃないかなということでは実は期待をいたしておるところでありまして、ぜひそういう面で大きな力を発揮していただき、なお一層、今ぎくしゃくしております日中関係などの修復にも科学技術を通じてしていただける方だというふうに大いに期待をいたしております。

【記者】 もんじゅにとっては、田中大臣というのはどうですか。プラスに働くのか、マイナスのほうに働くのか。

【市長】 プラスに働くというふうに思います。

【記者】 原子力規制委員会についてお伺いしたいんですけども、原子力規制委員会が立ち上がって、委員長はこれからの再稼働についてはかなり厳しい立場で臨むということをおっしゃってしまっていて、ほぼ審査が終わった泊原発とか伊方原発に関しても恐らく年度内はないと、遅ければ来年夏になるんじゃないかというお話ですけども、一度ほぼ国として審査が終わっていたものがまた1年ぐらい延びる可能性が出てきたことについて、全原協の会長としてどういうふうにとらえていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 新たに規制庁という形で立ち上がったところでありまして、規制庁の立場で安全を確認していく中で、どのような作業があるかはわかりませんが、スピーディに進められるところは進めてほしいというふうに願っております。ぜひこれから規制庁の中で高い安全性と、それをスピード感を持ってやっていただきたいなというふうに願っております。

【記者】 先ほど中国という話が出たんですけども、11月に新たに敦賀港に新たな中国航路が開通されます。ただ一方で、尖閣諸島の関係で、中国側は通関を強化したりとかいうことで、あれがもしなされれば荷物の輸出入なんかにかなり影響が出るんじゃないかなと予想されると思うんですけども、そのあたり現在のところ、例えばそういう影響があるのか。また、今後そういうようなご懸念がないのか、ちょっと教えてください。

【市長】 通関業務が中国の港で全部一斉に厳しくなったかというのは、ちょっと私もその状況は把握してないんですけども、恐らく毎日毎日あれだけの量の通関業務をいっときに、ある場所によってはやっているのかもしれないけれども、結構地方においてはそういう影響を受けずに、業務的にもいろんなものが流れているやに伺っていますので、さほど敦賀に入る船については影響はないんじゃないかというふうにはらんでいます。

ただ、ちょっと日数が、行きが大体5日から6日、また向こうから来るものが8日、9日という長い便になります。荷物の種類によってはそれでも十分ローテーションの組める荷物もあるようであります。しっかりと宣伝をして、多くの皆さん方に利用していただけるように期待しておりますし、政経はやはりしっかり分離して、経済面はよりつながりを持っていきたいなと私どもも期待をしております。

今のところは大きな心配はしておりませんが、具体的に細かい部分は調べないとわからぬところもたくさんあります。

【秘書広報課長補佐】 そのほかございませんでしょうか。

それでは、これをもちまして10月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後 2 時13分 終了